

2019.6.1-2020.5.31

株主メモ

事業年度	6月1日～翌年5月31日	公告の方法	電子公告の方法によります。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
定時株主総会	8月	公告掲載URL	https://www.pharmarise.com/
基準日	5月31日	証券コード	2796(東証一部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 電話:0120-232-711(通話料無料)		

年間スケジュール(予定)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
	■ 決算発表		■ 定時株主総会	■ 第1四半期決算発表	■ 中間配当基準日 株主優待基準日		■ 第2四半期決算発表	■ 株主優待申込書類発送	■ 株主優待発送期間	■ 第3四半期決算発表	■ 期末配当基準日



ファーマライズホールディングス株式会社

〒164-0011 東京都中野区中央一丁目38番1号 住友中野坂上ビル
TEL 03-3362-7130 FAX 03-3362-7190
<https://www.pharmarise.com/>



ファーマライズホールディングス株式会社

株主通信 令和2年5月期

株主の皆様へ

ファーマライズグループの挑戦

Top Interview

力強く成長する経営基盤の構築・事業の拡大

グループ体系・新規出店・M&Aによる規模の拡大 ほか

Topics…国家戦略特区での在宅遠隔服薬指導実施 ほか

連結決算概要

個別決算概要

会社概要

株主メモ・年間スケジュール



証券コード 2796

To Our Shareholders

株主の皆様へ

ファーマライズグループの挑戦

——調剤薬局事業を軸とした事業ポートフォリオの構築——

初めに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々の一日も早いご回復をお祈りいたします。

事業基盤の構築

当社グループのコア事業である調剤薬局事業においては、医療費抑制等の社会的要請を背景に後発医薬品の使用拡大及びセルフメディケーションに対する取り組み強化、並びに令和元年12月に5年ぶりとなる薬機法(医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律)改正があり更なる薬局サービス機能の充実が求められる中、周辺業種からの参入や中小規模のM&A活発化により競争が激化しており、一層の経営努力が求められております。

このような環境下、当社グループは平成30年11月にアスパラントグループ株式会社^{*1}と、同社が運営・管理するAG2号投資事業有限責任組合と資本業務提携契約を締結し、財務体質の強化のみならず、当社グループが経営課題と考えていた既存事業の改善・効率化、M&A及び新規出店の躍進、経営管理体制の最適化等に、同社と速度感を持って取り組んでおります。



代表取締役会長
大野 利美知

これらの取り組みにより、当期においては、令和元年10月の消費税率引き上げに伴う薬価改定や令和2年4月の調剤報酬改定、令和2年3月以降の新型コロナウイルス感染症の蔓延等、企業業績を押し下げる要因はあったものの、営業利益で前期比161.6%と大幅な増益となる決算を実現することができました。

引き続き、「力強く成長を継続するための経営基盤の構築」に邁進してまいります。

^{*1}：アスパラントグループ株式会社は、平成24年10月5日に設立され、潜在的な競争力のある国内企業に投資し、経営者と共に業績改善・成長を支援する会社であり、大手企業、プロフェッショナルファーム、公的機関等で長年経験を積んだメンバーで構成されております。

事業ポートフォリオの最適化

当社グループは、中期経営計画を実現するための一つ目の手段として「調剤薬局事業における競争力の強化及び新規出店並びにM&Aの加速」を掲げており、M&Aを積極的に推進しております。

令和元年10月1日に、当社の持分法適用関連会社であり電子お薬手帳「ポケットファーマシー」を主力取扱商品とする医療関連ITソリューション企業である株式会社メディカルフロントの株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。現在、国が推進する医療のIT化の中で、お薬手帳の電子化についてはその普及が進んでおり、「ポケットファーマシー」は、今後、当社が「かかりつけ薬剤師・薬局」業務を進めていくうえでの、重要な戦略ツールと位置付けております。同社の連結子会社化により、「ポケットファーマシー」の改良スピード、操作性、利便性、定着率、リピート率等、競合製品に対する差別化を進めることで、調剤薬局事業における競争力をより一段と強め、調剤薬局業界・医療業界におけるデジタル化という大きな外部環境の変化の波に乗り遅れないよう迅速に対応しております。

また、令和2年3月1日に、当社の持分法適用関連会社であり近畿地方に31店舗(うち大阪府に24店舗)の調剤薬局を展開しておりました、株式会社ヘルシーワークの株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。同社は、平成8年2月の創業以来「安心と信頼の薬局」をテーマに調剤薬局として地域医療に貢献しながら着実に成長をしてきており、同社を子会社化することで、双方が事業基盤を有する近畿地方において、両社の経営資源の相互活用により当社グループのコア事業である調

剤薬局事業を更に強化してまいります。

さらに、令和2年3月31日に、MR及びIT企業等へのSE等を紹介する有料職業紹介事業等を行う、株式会社ウィークの株式を取得し、同社を連結子会社としました。当社グループへの参入を契機として、更なる事業拡大を図るべく、既存の事業に加え、薬剤師や医療事務の人材紹介のほか、薬局運営に資する新規ソリューション事業の展開も想定しております。当社グループでは、人材紹介、派遣等を行う株式会社レイケアセンターや製薬企業向け営業支援システムの開発・運用保守サービス、クラウドサービス、スマートフォン向けアプリケーションサービスを提供している株式会社ミュートスなどのグループ企業がありますが、株式会社ウィークのような企業を積極的に加えていくことで、調剤薬局及び物販事業以外の事業分野をより一層発展させ、グループの事業基盤を更に強固にしていくことに取り組んでおります。

このように、コア事業周辺で成長する新しい事業分野を育成していくことで事業ポートフォリオの最適化を図りながら、グループ間の経営資源の相互活用、共同事業などを通じて、事業の強化、拡充、発展を図る等のシナジー効果を創出し、当社グループの企業価値を高めてまいります。

株主の皆様には引き続き変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

Top Interview

トップインタビュー

力強く成長する経営基盤を構築し、 事業の拡大と収益力の向上を推し進めます

Q この1年を振り返っていかがでしたか。

この1年は、平成30年11月8日に公表しました「中期経営計画 SFG(Steps for Future Growth)2021 ～成長を目指した経営基盤の構築」に従って主に事業の拡大と収益力の向上に取り組んでまいりました。

事業の拡大につきましては、調剤薬局事業において「かかりつけ薬剤師・薬局」の推進、後発医薬品の使用促進等を積極的に進めました。また、寝たきりの患者さんのお宅等に訪問して薬の指導や管理を行う在宅医療や、介護施設などの入所者への薬の指導・管理を行う施設調剤等の地域医療にも積極的に取り組みました。

新規出店とM&Aにおいては、新規出店11店舗（調剤薬局7店舗、ドラッグストア4店舗）の開局を行うとともに、株式会社ヘルシーワーク、有限会社サン・メディカル等のM&Aにより調剤薬局店舗が34店舗増加しました。また、持分法適用関連会社である株式会社メディカルフロントの株式を取得し連結子会社化するとともに、MR及びIT企業等への人材を紹介する有料職業紹介事業等を行う株式会社ウィークの株式を取得し連結子会社化しました。

収益力の向上につきましては、前期、令和元年5月末に6社あった店舗運営の事業会社を令和元年9月までには1社に統合したことによって、組織とコスト構造の見直しを行うことができました。

このような取り組みが結果に結びついてきたことで、当期においては前期に比較して大幅な増益を達成することができました。

Q 当期(令和元年6月1日～令和2年5月31日)の業績について教えてください。

当期の業績は、不採算店舗の閉店、新型コロナウイルス感染症による受診控えと長期処方増加に伴う処方せん枚数の減少等により、売上高は前期比で減少となりましたが、前期から進めてきたグループ会社の統合効果、労務費・人件費の削減、仕入原価の低減等により、前期比で大幅な増益とすることができました。

売上高は前期比98.7%の510億30百万円、営業利益は前期比161.6%の10億34百万円、経常利益は前期比173.3%の10億23百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期より5億54百万円増加して5億77百万円となり、1株当たりの当期純利益は前期比58円56銭プラスの61円11銭となりました。

また、当期は、営業利益率で前期比0.8%プラスの2.0%、営業キャッシュ・フローで前期比75.5%プラスの15億72百万円と財務体質の改善を進め、より筋肉質な財務構造を実現した1年となりました。過年度赤字であった物販事業も、下期からは黒字化の兆しが見えてきており、次期の計画では黒字化を見込んでおります。

代表取締役社長
秋山 昌之



Q 次期(令和2年6月1日～令和3年5月31日)の業績予想について教えてください。

令和3年5月期の売上高は、前期比105.9%の540億41百万円を計画しております。当期M&Aにより取得した株式会社ヘルシーワーク、有限会社サン・メディカル、株式会社メディカルフロント、株式会社ウィークの業績が年間を通じて寄与するとともに、調剤薬局・物販の各部門での新規出店により増収となります。営業利益は、前期比112.8%の11億67百万円を計画しております。店舗と本部のオペレーションの効率化を図るために開発した新基幹システムが次期より本格稼働することや、これまで取り組んできたグループ会社の統合効果等により、より一層の収益改善を見込んでおります。経常利益は、前期比108.7%の11億12百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比65.1%の3億76百万円を計画しております。令和2年5月期は、法人税等調整額で2億31百万円の増益要因がありましたが、令和3年5月期は、法人税等調整額は発生しない見込みのため、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で減少いたします。結果、1株当たり当期純利益は、40円51銭を計画しております。

Q 最後に次期に向けて注力することについて教えてください。

令和2年5月期は、強靱な財務体質を構築する年でした。令和3年5月期は、中期経営計画に掲げております、力強く成長する経営基盤を構築するために、①調剤薬局事業の競争力強化および新規出店・M&Aの加速、②物販事業の拡大および収益性の向上、③業務手法とグループ組織構造の見直しによる収益構造の改善を強力に推進し、厳しい環境の中でも収益を維持して、更に成長するための事業構造基盤を構築してまいります。

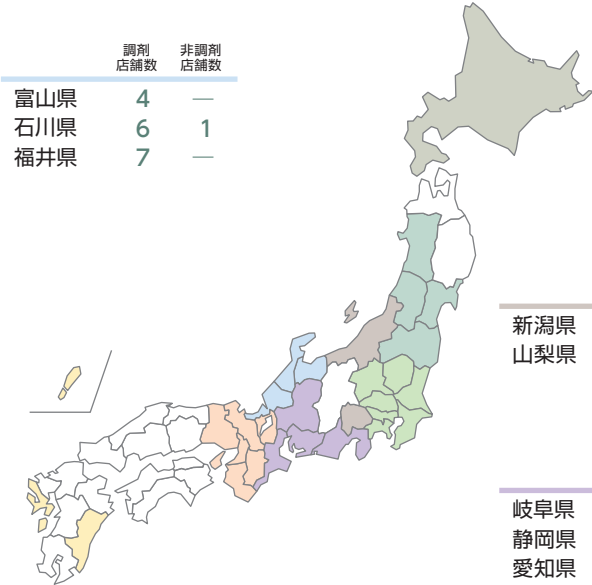
コア事業である調剤薬局事業の強化、新規出店とM&A、物販事業の収益力の改善、新基幹システム導入や統合効果による更なる収益性向上により、中期経営計画の最終年度(令和4年5月期)の目標値である営業利益15億円を一年前倒しで達成するよう全力で取り組んでまいり所存です。

■グループ体系(令和2年5月末現在)

連結子会社	調剤店舗数	非調剤店舗数
ファーマライズ株式会社	255	48
株式会社寿データバンク	—	—
株式会社ミュートス	—	—
株式会社ケミスト	6	—
株式会社レイケアセンター	—	—
株式会社メディカルフロント	—	—
株式会社ヘルシーワーク	31	—
株式会社ウィーク	—	—
有限会社サン・メディカル	2	—
合 計	342店舗	294

■都道府県別出店状況(令和2年5月末現在)

	調剤 店舗数	非調剤 店舗数
滋賀県	3	—
京都府	8	4
大阪府	45	18
兵庫県	17	—
奈良県	3	—
和歌山県	4	—



	調剤 店舗数	非調剤 店舗数
富山県	4	—
石川県	6	1
福井県	7	—

	調剤 店舗数	非調剤 店舗数
新潟県	15	—
山梨県	1	—

	調剤 店舗数	非調剤 店舗数
岐阜県	2	—
静岡県	13	—
愛知県	13	—
三重県	9	—

	調剤 店舗数	非調剤 店舗数
北海道	47	1

	調剤 店舗数	非調剤 店舗数
宮城県	10	—
秋田県	2	—
山形県	1	—
福島県	11	—

	調剤 店舗数	非調剤 店舗数
茨城県	3	—
栃木県	1	—
群馬県	7	—
埼玉県	7	—
千葉県	5	3
東京都	30	17
神奈川県	8	4

■新規出店・M&Aによる規模の拡大

店舗形態	令和元年5月末 店舗数	新規開局・ 開店	M&A・ 事業譲受	閉局・閉店・ 売却	令和2年5月末 店舗数
調剤薬局店舗	258	7	34	5	294
非調剤店舗 (ドラッグストア等)	51	4	—	7	48
合 計	309	—	—	—	342

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々の一日も早いご回復をお祈りいたします。

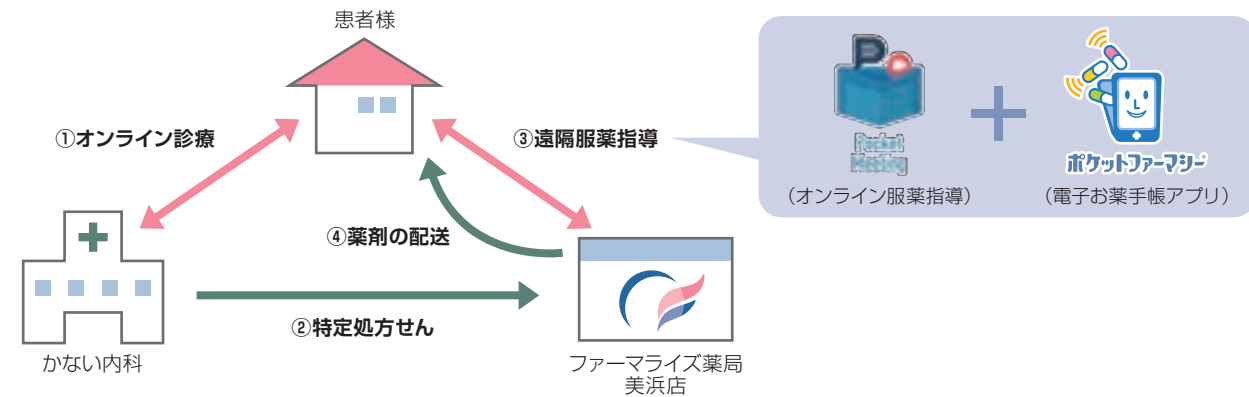
■国家戦略特区での在宅遠隔服薬指導実施

令和2年1月25日にファーマライズ薬局美浜店(千葉県千葉市)で、医療法人社団明康会 かない内科(千葉県千葉市緑区)と連携し、国家戦略特区における都市部でのオンライン服薬指導を、在宅医療を実施する患者様に対して日本で初めて実施しました。

在宅患者へのオンライン服薬指導は、患者様及び患者様ご家族の大幅な負担軽減や薬剤師の地域医療、在宅医療への関与の促進など、少子高齢化社会の課題を解決するツールとしての期待も大きく、社会的にも大変意義のある取り組みと考えております。

今回の実施で得た知見、ノウハウに加え、他の患者様からの利用に関するご要望にも応えるべく、当社の地域医療、在宅医療への関与方策として、更なる取り組みを推進してまいります。

都市部でのオンライン服薬指導のイメージ



■開局・出店45店舗

令和2年5月期は、調剤薬局41店舗、ドラッグストア4店舗を開局・出店いたしました。

調剤薬局店舗	ドラッグストア店舗
令和元年	令和元年
6月 1店舗(静岡県)※取得	6月 北浜プラザ店(大阪府)
7月 鹿浜店(東京都) 元久保坂の上店(神奈川県) かやしま店(大阪府)	7月 西調布店(東京都)
9月 花園店(大阪府)	9月 羽衣駅前店(大阪府)
12月 東山七条店(京都府)	10月 恋ヶ窪店(東京都)
令和2年	
3月 (株)ヘルシーワークの子会社化により31店舗を取得	
(内訳)大阪府 24店舗 兵庫県 1店舗 奈良県 3店舗 和歌山県 3店舗	
4月 2店舗(神奈川県)※取得	
5月 浦安富岡店(千葉県) 春木店(大阪府)	

連結決算概要

連結貸借対照表について

資産合計は前連結会計年度末残高に対し9億88百万円の増加となりました。これは商品及び製品の5億18百万円の増加、売上債権等の4億79百万円の増加等で流動資産が10億75百万円増加した一方、無形固定資産その他が3億4百万円増加するも投資有価証券の3億75百万円の減少で固定資産が83百万円減少したことによります。

負債合計は前連結会計年度末残高に対し6億62百万円の増加となりました。これは、買掛金が1億69百万円、未払法人税等が1億52百万円、その他が2億67百万円それぞれ増加したこと等で流動負債が6億88百万円増加した一方、リース債務が1億79百万円増加するも社債の1億28百万円の減少、長期借入金の1億13百万円の減少等により固定負債が26百万円減少したことによります。

純資産は前連結会計年度末残高に対し3億26百万円増加しました。これは、当社の子会社である薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社の非支配株主持分の取得により資本剰余金が増加したことや当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益により利益剰余金が4億48百万円増加した一方で、自己株式取得により自己株式が1億72百万円減少したことによるものです。

連結損益計算書について

売上高につきましては、不採算店舗の閉店の影響の他、新型コロナウイルス感染症の影響があり、前連結会計年度に対して6億98百万円の減収となりました。

一方、利益面においては、新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、調剤薬局事業における技術料の着実な獲得等に加えて、調剤薬局事業における売上原価の抑制効果、販管費のコントロールによる経費削減の効果等を主な要因として、営業利益、経常利益はともに前年比増益となり、法人税等調整額△2億31百万円を計上したこと等により親会社株主に帰属する当期純利益も前年比増益となっております。

連結キャッシュ・フロー計算書について

営業活動の結果増加した資金は前連結会計年度に対して6億76百万円増加しました。これは税金等調整前当期純利益8億19百万円、のれん償却額7億6百万円等を計上し、売上債権が3億73百万円減少した一方で、棚卸資産が3億42百万円増加し、仕入債務が2億58百万円減少し、未収消費税が4億49百万円増加し、法人税等の支払額が2億78百万円となったことによるものです。

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科 目	令和2年5月期 (令和2年 5月31日現在)	令和元年5月期 (令和元年 5月31日現在)	前期末比 増減額
資産の部			
流動資産	10,676	9,601	1,075
固定資産	14,524	14,608	△83
有形固定資産	6,332	6,290	41
無形固定資産	5,285	5,175	109
投資その他の資産	2,906	3,141	△234
繰延資産	4	8	△3
資産合計	25,206	24,217	988
負債の部			
流動負債	10,036	9,347	688
固定負債	9,223	9,250	△26
負債合計	19,259	18,597	662
純資産の部			
株主資本	5,693	5,287	406
資本金	1,229	1,229	0
資本剰余金	1,437	1,307	129
利益剰余金	3,197	2,749	448
自己株式	△172	—	△172
その他の包括利益累計額	3	4	△0
新株予約権	211	173	37
非支配株主持分	37	153	△115
純資産合計	5,946	5,619	326
負債純資産合計	25,206	24,217	988

投資活動の結果使用した資金は前連結会計年度に対して2億32百万円増加しました。これは新規開局等に伴う有形固定資産の取得による支出が3億49百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が4億76百万円あった一方で、無形固定資産の売却による収入が1億18百万円となったこと等によるものです。

財務活動の結果減少した資金は7億66百万円(前年同期は3億54百万円の収入)となりました。これは長期借入れによる収入が26億円あった一方で、長期借入金の返済による支出が26億75百万円、自己株式の取得による支出が1億73百万円、リース債務の返済による支出が2億33百万円となったこと等によるものです。

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	令和2年5月期 (令和元年6月1日から 令和2年5月31日まで)	令和元年5月期 (平成30年6月1日から 令和元年5月31日まで)	前期末比 増減額
売上高	51,030	51,728	△698
売上原価	43,592	44,386	△793
売上総利益	7,437	7,342	95
販売費及び一般管理費	6,402	6,702	△299
営業利益	1,034	640	394
営業外収益	122	132	△9
営業外費用	133	181	△48
経常利益	1,023	590	432
特別利益	63	7	55
特別損失	267	197	70
税金等調整前当期純利益	819	400	418
法人税、住民税及び事業税	469	391	78
法人税等調整額	△231	18	△250
当期純利益または純損失(△)	580	△10	591
非支配株主に帰属する当期純利益または当期純損失	3	△33	36
親会社株主に帰属する当期純利益	577	23	554

連結株主資本等変動計算書(要約)

(令和元年6月1日から令和2年5月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	株主資本					その他の包括利益累計額			新株 予約権	非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,229	1,307	2,749	—	5,287	0	3	4	173	153	5,619
連結会計年度中の変動額											
新株の発行					—						—
剰余金の配当			△129		△129						△129
連結子会社株式の取得による持分の増減		129			129					△119	10
親会社株主に帰属する当期純利益			577		577						577
自己株式の取得				△172	△172						△172
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△0	△0	△0	37	3	39
当期変動額合計	—	129	448	△172	406	△0	△0	△0	37	△115	326
当期末残高	1,229	1,437	3,197	△172	5,693	0	3	3	211	37	5,946

個別決算概要

■ 単体貸借対照表 (要約)		
(単位:百万円)		
科 目	令和2年5月期 (令和2年5月31日現在)	令和元年5月期 (令和元年5月31日現在)
資産の部		
流動資産	2,546	3,482
固定資産	13,078	11,735
有形固定資産	231	224
無形固定資産	418	81
投資その他の資産	12,428	11,429
繰延資産	4	8
資産合計	15,629	15,226
負債の部		
流動負債	3,172	2,948
固定負債	7,876	7,863
負債合計	11,049	10,811
純資産の部		
株主資本	4,368	4,241
資本金	1,229	1,229
資本剰余金	1,462	1,297
利益剰余金	1,848	1,713
自己株式	△172	—
新株予約権	211	173
純資産合計	4,580	4,415
負債及び純資産合計	15,629	15,226

■ 単体損益計算書 (要約)		
(単位:百万円)		
科 目	令和2年5月期 (令和元年6月1日から 令和2年5月31日まで)	令和元年5月期 (平成30年6月1日から 令和元年5月31日まで)
売上高	1,182	608
売上原価	—	0
売上総利益	1,182	608
販売費及び一般管理費	906	362
営業利益	276	246
営業外収益	158	172
営業外費用	56	111
経常利益	378	307
特別損失	26	—
税引前当期純利益	351	307
法人税、住民税及び事業税	91	89
法人税等調整額	△3	△11
当期純利益	264	229

会社概要

■ 会社概要 (令和2年5月31日現在)	
設 立	昭和59年6月
社 名	ファーマライズホールディングス株式会社
資本金	1,229百万円
本店所在地	東京都中野区中央一丁目38番1号
主な事業内容	持株会社(調剤薬局事業などを営むグループ会社を統括する管理運営会社)
ホームページ	https://www.pharmarise.com/
主要取引銀行	株式会社三菱UFJ銀行 株式会社みずほ銀行 株式会社横浜銀行 他
連結従業員数	1,951名(非常勤含む)
■ 役 員 (令和2年8月26日現在)	
代表取締役会長	大 野 利美知
取締役副会長	大 野 小夜子
代表取締役社長	秋 山 昌 之
専 務 取 締 役	松 浦 恵 子
取 締 役	沼 田 豊
取 締 役	菅 野 洋
取 締 役 (社 外)	渡 邊 則 夫
取 締 役 (社 外)	多 田 宏
取 締 役 (社 外)	原 知 己
取 締 役 (社 外)	中 西 雅 也
取 締 役 (社 外)	戸 田 一 誠
常 勤 監 査 役	小 高 芳 夫
監 査 役 (社 外)	榎 本 孝 之
監 査 役 (社 外)	園 部 経 夫
■ 株式の状況 (令和2年5月31日現在)	
発行可能株式総数	31,398,000株
発行済株式総数	9,560,655株
保有自己株式総数	269,500株
株主数	9,869名

■ 大株主の状況 (令和2年5月31日現在)		
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ビックフィールド	3,015,000	32.5
中北薬品株式会社	396,000	4.3
株式会社バイタルネット	396,000	4.3
株式会社ほくやく	396,000	4.3
ファーマライズ従業員持株会	346,800	3.7
大野 小夜子	275,740	3.0
ヒグチ産業株式会社	214,500	2.3
AG2号投資事業有限責任組合	182,400	2.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	170,600	1.8
エア・ウォーター株式会社	150,000	1.6
(注)持株比率は、自己株式(269,500株)を控除して計算し、小数点第1位未満を四捨五入して表示しております。		
■ 主要仕入先		
アルフレッサ株式会社	中北薬品株式会社	
岩淵薬品株式会社	株式会社バイタルネット	
株式会社スズケン	株式会社ほくやく	他
■ 主要な連結子会社 (令和2年5月31日現在)		
名 称	住 所	事業内容
ファーマライズ株式会社	東京都中野区	調剤薬局事業
株式会社ケミスト	長崎県諫早市	
株式会社ヘルシーワーク	大阪府大阪市	
有限会社サン・メディカル	神奈川県茅ヶ崎市	
株式会社寿データバンク	栃木県足利市	医学資料保管・管理事業
株式会社ミュートス	大阪府大阪市	製薬企業等向けシステムインテグレーション事業
株式会社レイケアセンター	大阪府大阪市	人材派遣事業
株式会社メディカルフロント	東京都中野区	医療関連ITソリューション事業
株式会社ウィーク	東京都文京区	有料職業紹介事業